



約1500人が参加した総決起集会。会場は熱気であふれていた=3月5日、札幌市民ホール



署名を提出する交渉団。写真右から2人目、岸・中央執行委員(岩見沢市職)

3月5日、東京都・全日通「霞が関ビル」で、「2014春季生活闘争3・5北海道・東北プロック上京行動」が行われ、約200人(北海道から19人)が集結した。人事院交渉には、各産別・労組の代表者が参加し、道本部から藤盛副委員長が出席した。交渉のはじめに、「給与制度の総合的見直し反対署名」182万筆(3月5日現在)を人事院に提出した。藤盛副

委員は「地方では、公務員賃金に準拠している企業や団体も多く、地域経済に大きな影響を与えている。給与制度の総合的見直しは断固として反対だ」と申し入れた。人事院からは「地域や職場の実態を踏まえ、意見・要望は受け止め院内関係者に伝える」と回答があった。



人事院へ「怒布」を提出する瀧口青年部長

JICHIRO スケジュール

3月

- 25日(火) 第13回執行委員会(札幌市)
- 連合北海道第5回憲法講座(札幌市)
- 26日(水) 連合北海道TPP問題学習会(札幌市)
- 28日(金) 道本部現業公企評第1回都市公共交通部会幹事会(札幌市)
- 自治労共済北海道支部第3回事務担当者会議(札幌市)

道本部ホームページ

自治労北海道 ユーザー名:minnade
組合員専用ページは パスワード:danketsu2013

春闘

『賃金引き上げ』

デフレ脱却には……

連合北海道は3月5日、札幌市民ホールで「2014春期生活闘争勝利!今こそ賃上げデフレからの脱却3・5全道総決起集会」を開き、約1500人が参加した。今春闘で連合は『デフレ脱却のために月例賃金の引き上げが必要だ』とかけ取り組みをすすめている。

工藤・連合北海道会長は、「デフレから脱却するためには、国民一人ひとりの所得増加が必要であり、月例賃金の引き上げをめぐって」と述べた。また「公務員給与の削減反対、地域福祉の充実、特定秘密保護法の廃案の課題とあわせて、政府がすすめるあらゆる『不条理』に徹底して対峙する」と強調した。さらに、「春闘の主役は政府でも経済団体でもなく私たち労働組合だ。すべての組合が総力をあげて、最後までねばり強く交渉を展開していくことを誓い合おう」とあいさつした。

出村事務局長は、2014春闘の取り組み経過と課題について「今次闘争は、すべての構成組織が、月例賃金の引き上げにこだわるたたかいを進め、デフレ経済の悪循環を断ち切ることが最大のテーマ。月例賃金要求水準の目安として、賃上げ・ベースアップ分1%を含む3~4%を要求し、賃金制度が未整備な組合は、賃金カーブ維持

人事院

『署名』182万筆を提出

争は、すべての構成組織が、月例賃金の引き上げにこだわるたたかいを進め、デフレ経済の悪循環を断ち切ることが最大のテーマ。月例賃金要求水準の目安として、賃上げ・ベースアップ分1%を含む3~4%を要求し、賃金制度が未整備な組合は、賃金カーブ維持

3月6日、公務員連絡会の人事院交渉に、瀧口道本部青年部長(自治労本部青年部副部長の立場)が参加した。

交渉では、道本部青年部をはじめ、全国で取り組んだ「給与制度の総合的見直し反対の『怒布』」188枚を手渡した。

瀧口青年部長は「若い仲間が『自分の地域をより良くしたい』という夢や希望を抱けなくなり、心身の健康が破壊されている実態がある」と述べ、「北海道職員など未だ

最後に「若年層はそもそも賃金が民間より低い。人事院が中立的な機関ならその責任を果たしてほしい」と申し入れた。



集会後はデモ行進が行われた

分を含め9,500円の引き上げを求め、パート等正規労働者の時間単価30円の引き上げを強く求めていく」と述べた。

また、「96万人近い非正規労働者の賃金・労働条件の改善にむけて、パート時給1000円への早期引上げや、正規労働者への転換制度の導入・定着にむけた教育訓練の拡充、改正労働契約法の遵守を求め、あわせて公契約条例の制定をめざして行動を展開する」と述べた。最後に、「未組織・パート労働者を含むすべての働く仲間と連携し、要求実現にむけ奮闘しよう」と呼びかけた。

集会後、札幌市内中心部をデモ行進し、「大幅賃金引き上げを勝ち取るぞ!」要求の実現までたたかうぞ」とシュプレヒコールを上げた。

『怒布』提出 人事院の責任果たせ

『給与制度の見直し』反対 集約状況

怒りの声を署名にこめよう!

全道 **29万筆** 達成しよう!

◆ **133,778筆** (3月17日現在)

※集約した署名は中央行動・交渉に持ち込みます!



全日本自治団体労働組合 北海道本部
〒060-0806 札幌市北区北6西7北海道自治労会館
電話 011-747-3211
FAX 011-700-2053
編集・発行 渡部 裕幸

東京電力福島第一原発事故から3年。まだ、問題解決にはなっていない。安倍政権は原発を「重要なベースロード電源」とし、今後も使い続ける方針だ。放射性廃棄物も、原発が抱える大きなリスク。原発を稼働すれば、使用済み

朝風

核燃料が増える。各原発の燃料プールの容量は限界に近づいている。廃棄物の処理や事故リスクを考えれば、原発のコストが大きいことを政府は認め「原発ゼロ社会」にすべきだ。脱原発にむけ、全力で取り組みを続けよう。

◇道本部ホームページ◇
『QRコード』ができました!
携帯電話で下記のコードを読み込むと道本部ホームページにリンクすることが出来ます。ぜひご利用ください。



原発のない北海道の実現を求める
「全道100万人」署名集約状況

(道本部集約)
167 単組・総支部
93,678 筆

(全体集約)
657,356 筆
(2月末時点)

フクシマを 忘れない! さようなら原発北海道集会

残った人も避難した人も 心の傷は一緒

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から3周年を前に、3月8日、札幌市・共済ホールで「フクシマを忘れない! さようなら原発北海道集会」が開かれ、約900人が参加した。



900人が参加した=3月8日、札幌市共済ホール



地協聖孝さん

福島から新ひだか町へ避難した、福島原発告訴団の地協聖孝さんが発言した。地協さんは、「原発事故後、福島県民が怒りを表現するため『原子力ムラ』の刑事責任を追及するため、2012年6月に700人が、検察に陳述書を出し、第1次告訴をした。検察に対し、強制捜査をするよう要求



大島美和さん

福島県・伊達市から避難している、中学生の大島美和さんは、「自然豊かなマチで暮らしていた。家も友達も大好きだった。今は住みやすい団地に任されているが、福島のことはずっと気にかかっている。大切な友人や叔父・叔母が福島にいる。残った人も避難した人も心の傷は一緒。一日も早い福島第一原発事故の収束を願っている。二度とこのような事故が起こらないことを望む。私たちが経験したことを忘れないでほしい」と呼びかけた。

もたちの甲状腺がん『確定』は33人、甲状腺がん『疑い』は41人で、合計74人になった。調査を主導してきた県立医大の山下俊一学長は、「安定ヨウ素剤は飲まなくてよい」と、県民に安全、安心を振りまいてきた。しかし、県立医大職員らが、安定ヨウ素剤を飲んでいないことが、市民の情報公開請求によって明らかに



デモ行進で「原発再稼働反対」を訴えた=3月8日、札幌市

えさきさんの 江崎孝の 国会だより 22

怖い国会情勢

2月の国会は衆議院を中心に回ります。来年度の予算審議がこの期間に行われるからです。今年は異例の早さで審議が進み、2月28日に衆議院で採決され参議院に送られてきました。

民進党は衆議院採決を3月3日までを延ばしたかったのですが、予算委員会の力関係は民進党の理事が1人という超劣勢です。加えて自民にすり寄る維新の理事がいるので、野党共闘も不発。与党の良いように仕切られてしまいます。

衆議院成立が3日以降になれば、30日ルールで自然成立日が4月にずれ込みます。年度をまたげば運営上さまざまな支障が生じることになり。それを嫌がる与党に対して、他の法案修正など譲歩を迫る駆け引きができるわけですが、今年は全く手も足もだせずに終わる事になるでしょう。本当に怖い国会情勢になりました。(3月7日東京にて)

丁寧な討論・学習を継続

【石狩地方本部発】「賃金を守るための青年部運動を巻き起こそう」をテーマに、1月25・26日、定山溪で「石狩地方本部青年女性春闘討論集会」を開き、61人(うち女性18人)が参加しました。

基調講演では渡邊・道本部副部長が講演し、青年部活動の学習・交流・実践の大切さを学習しました。分散会では賃金への不満、時間外勤務は申請できているかといった意見を話し合い、「家電をちゃんと買える賃金がほしい」「日々の業務に忙しい」「職場の課題が放置されていることに気づくことができた。この気づきを単組に持ち帰って取り組みたい」といった感想が出されました。単組の規模が大きいために、青年部活動が見えにくいという課題をもつ石狩地方本部ですが、単組や職場で起きている実態を「誰かのせい」ではなく「なぜそのようなことが起きているのか」を今後も丁寧な討論や学習を続け、仲間



職場だより

チャレンジ! チルドレン・ファースト 38

「市町村事業計画」を着実に実行

前回、子ども・子育て新制度にかかる経費として1兆1千億円が見込まれていることをお知らせしました。消費税が10%に引き上げられたとしても確保できるのは7千億円にとどまります。このことは当初から想定されていたことであり、実は今になって驚くことでもないのですが、自治体ではすでに具体的な作業に入っている段階です。

「市町村事業計画」を着実に実行することは当然なのですが、行く手に立ちちはたかる壁は高いのかい状況になったのではな

忙中余話

道本部の任りと行動し実践していきに就き早2たい。まずは、自身の一年、単組期間 回り以上も大きくしてしを含めると5 年、専従期間 5年ぶりに本来業務を終える。

専従を担った時から感じ、戻ることになるが、自治体職員・労働組合役員の経験、支え合いの仲間、経験をしっかりと活かしていきたい。また、今後を担う人材との関わりをとおして、より多くの「人財」を育てていきたい。やり切れなかった思いは後任の同級生に一方的に引き継ぎ、道本部を去ります。引き続き、自治労に結果を!

(鎌塚 誠)